



**「美しい国おこし・三重」
三重県基本計画
(改定版)(案)**

三重県

平成24年 1月

| | |
|--|----|
| はじめに | 1 |
| 序章 計画の改定にあたって | |
| 1 改定の目的 | 2 |
| 2 改定の概要 | 2 |
| 3 事業推進にあたっての役割分担 | 3 |
| 4 期間 | 3 |
| 第2章 目的と取組の手順 | |
| 1 目的 | 4 |
| 2 取組の柱 | 5 |
| (1) 自発的な地域づくりグループへの支援 | 5 |
| (2) 自立性・持続性を高めるしくみづくり | 6 |
| (3) 新たなイベントスタイルによる県民力の結集と成果の情報発信 | 7 |
| 第3章 取組の構成と展開 | |
| 1 取組の構成 | 8 |
| 2 取組の展開 | 9 |
| (1) 地域での美し国おこし | 9 |
| (2) テーマに基づき全県的に取り組む美し国おこし | 10 |
| (3) 節目に行う効果的な情報発信の取組 | 11 |
| 第4章 地域づくりの担い手の育成と支援 | |
| 1 基本的な考え方 | 13 |
| 2 支援メニュー | 13 |
| 第5章 情報発信 | |
| 1 「美し国おこし・三重」の取組全体についての情報発信 | 16 |
| 2 個々のパートナーグループの取組についての情報発信 | 16 |
| (1) 誘客 | 17 |
| (2) 販売 | 17 |
| (3) 移住・交流 | 17 |
| (4) ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス | 17 |

第6章 目標と検証・評価

| | |
|-------------------------|----|
| 1 検証・評価 | 18 |
| 2 目標の設定 | 18 |
| (1) 全体指標と目標の設定 | 18 |
| (2) 個別の取組指標と目標の設定 | 19 |

第7章 推進体制と相関関係

| | |
|----------------------------------|----|
| 1 推進体制・ステークホルダー相関図 | 21 |
| 2 「美し国おこし・三重」における県の推進体制の整備 | 22 |

第8章 スケジュール

24

三重は海や山の豊かな自然に恵まれ、人が暮らすのに理想的な地域として、古くから「美し国」と呼ばれてきました。また、日本人の精神文化・生活文化の源流ともいえる「伊勢」、「熊野」を有し、「こころのふるさと」として、人びとを魅了し、多くの人びとが三重の地を訪れました。さまざまな街道や海の道をとおした、諸国との文化や情報の交流は、三重の各地に豊かな文芸・芸術や産業を育み、それらは、また、全国に発信されていきました。

「美し国おこし・三重」は、住む人も訪れる人も幸福を実感できる地域づくりを進める取組です。地域のさまざまな主体が、地域の特色ある自然や歴史・文化などを活用して取り組む地域づくりを基本に、平成21(2009)年から平成26(2014)年までの6年間にわたって、多彩な催しを展開することにより、地域の魅力や価値を向上させ、発信するとともに、集客交流の拡大をはかり、自立・持続可能で元気な地域づくりへとつなげていく取組です。

また、「美し国おこし・三重」では、地域づくりを加速させるため、多彩な交流を生み出すとともに、イベントの持つ高い情報発信力などの効果を最大限に活用することとし、平成21(2009)年には、この取組の始まりを宣言するオープニングを開催し、さまざまな主体による地域づくりの全県的な取組としての期待感を醸成するとともに、平成26(2014)年には、6年間の地域づくりの成果を披露し、さらなる交流・連携につなげていくこととしています。

今回、これまでの取組の検証をふまえて、これからの取組の具体的な内容と進め方を示すため、平成20年11月に策定した「美し国おこし・三重」基本計画を改定しました。

先人のたゆまぬ努力により営々と築きあげられてきた「美し国 三重」を、さらに磨き上げ、積極的に県内外へ情報発信し、三重をより一層素晴らしく、元気にしていこうではありませんか。

1 改定の目的

平成 26(2014)年の県民力拡大プロジェクト実施計画を策定するにあたって、平成 21(2009)年4月のオープニング宣言により、本格的にスタートした「美し国おこし・三重」の約3年間の取組を県議会、パートナーグループアンケート、評価委員会などの手法により検証したところ、座談会等の開催数などの量的な評価は高く、支援メニューに対するパートナーグループの満足度も一定の評価を得ており、取組の結果、成果が表れてきた事例も出てきています。

一方、「取組のアウトカムの成果が必要」、「取組自体が分かりにくい」といった意見があり、「本取組のコンセプトやめざすべき姿を伝えきれていない」といった課題が明らかになるとともに、「マスメディアの活用等、しっかりした広報が必要」といった意見のとおり、「広報の不足」が課題として挙がり、県民の認知度も14%（「平成 23 年度一万人アンケート結果」）と低調に推移しており、県民の皆さんの本取組への参加・参画が少ない状況です。

その他にも、本取組の柱の1つとするとともに、県民の協働のパートナーとして重要性が指摘されています中間支援組織との、「連携・協働が不足している」と意見もあります。

また、新しい県政ビジョンである「みえ県民力ビジョン(仮称)」が策定され、自立し行動する県民(アクティブ・シチズン)が協働により成果を生み出す「県民力による『協創』の三重づくり」を進めていくこととしています。

これまでの「美し国おこし・三重」の取組の検証結果と「みえ県民力ビジョン(仮称)」の考え方にに基づき、本基本計画の改定を行い、本取組を広く・深く県民の皆さんに知っていただき、一層の参加・参画を促進し、県民運動へと取組を昇華していきたいと考えています。

2 改定の概要

「1 改定の目的」に記載の目的を実現するため、次の3点について改定を行います。

- (1) 平成 26(2014)年に実施する県民力拡大プロジェクトの内容を明示すること。
- (2) イベント手法を活用し、活動の進展、テーマプロジェクト等の取組の一体感や情報発信力を高めること。
- (3) 取組終了後を見据え、地域やテーマでつながる個人、グループ、企業・団体間のネットワーク強化の支援を図ること。

なお、本取組は長期間にわたるため、各年度の取組の検証を行うとともに、成果を次年度以降に生かせるよう、毎年度実施計画を策定し、基本計画の実効性を高めます。

3 事業推進にあたっての役割分担

「美し国おこし・三重」は、行政が中心となって「公」を担うのではなく、県民の皆さん、企業、市町、県などさまざまな主体が一緒になって「県民力による『協創』の三重づくり」の考え方のもとに取組を進めます。

このため、県は、地域づくりを担うさまざまな主体で構成する「美し国おこし・三重」実行委員会を組織し、事業を推進します。

また、「美し国おこし・三重」は、「地域での美し国おこし」、「テーマに基づき全県的に取り組む美し国おこし」、県民力拡大プロジェクトなどの「節目に行う効果的な情報発信の取組」の3つの構成からなる取組であり、それぞれの取組ごとに役割を分担しながら、さまざまな主体が協働して取り組み、その成果から新しいものを創造していこうとすること（「協創」）が重要であり、県民、民間事業者、大学、市町には次の役割が期待されます。

(1) 県民の皆さんの役割

自立し、行動する県民（アクティブ・シチズン）として、地域づくりの担い手、「美し国おこし・三重」の取組の主役として参画し、パートナーとして、取組の輪を広げ、県民運動へとつなげます。

(2) 民間事業者（企業など）の役割

生業との関わりや地域貢献など、さまざまな立場から、自主的な取組や共催・協賛などを行うことにより参画します。

(3) 大学などの役割

地域に根ざした研究機関、教育機関として、豊富な人材、知恵、情報を生かした新たな地域づくりの担い手として参画します。また、他の主体間の連携を促します。

(4) 市町の役割

住民の皆さんに最も身近な基礎自治体として、地域が主体となった取組が何よりも大切であるということを基本において、住民の皆さんとともに「美し国 三重」の地域づくりに取り組みます。

4 期間

平成 21(2009)年から平成 26(2014)年まで(6年間)

少子高齢化の進展、薄れつつある人・地域・自然の“絆”など、地域課題が山積する中、今後、自立・持続可能で元気な地域づくりを実現するには、相応の期間をかけて人材育成に取り組み、地域内外の交流・連携を通じて、その取組の輪を広げていく必要があります。

また、三重県は、平成 25(2013)年の御遷宮に向け、全国的にも注目度が高まるなど、地域づくりの成果を生かした交流・連携を拡大する好機を迎えていることから、おかげ年にあたる平成 26(2014)年まで取り組むこととします。

1 目的

特色ある地域資源を生かした自立・持続可能で元気な地域づくり

(地域の実情と課題)

三重県では、市町村合併に伴い、住民の皆さんに最も身近な基礎自治体である市町の区域が広がり、より効率的な地域経営が求められる一方で、今後予測される人口減少社会の中で、少子・高齢化などの環境変化への対応を迫られる状況にあります。

県北部地域では、道路などの社会基盤整備や企業誘致などが進む一方、価値観やライフスタイルの多様化、外国人住民との共生などに伴うコミュニティのあり方が問われています。

また、県南部地域については、過疎・高齢化などにより、コミュニティの持つ機能が弱体化してきており、地域内外との交流・連携を進めるしくみを構築するなど、いかに地域を活性化していくかが課題となっています。

地域間格差の是正や社会システムの変革など、市町や県レベルの取組だけではこのような課題に対応できないところもありますが、これまでの地域づくりにおいては、薄れゆく“絆”の維持・再生や、地域を担う人づくりと人材を生かす舞台づくりが十分かつ継続的に進められてこなかったことを認識する必要があります。

このため、それぞれの地域において、少子・高齢化や団塊の世代の動向など今後の人口構成の特性をふまえつつ、地域への愛着や誇りの醸成、地域資源の再認識・活用といった視点に立ち、人材の育成・活用、コミュニティや“絆”の維持・再生、地域の魅力・価値を高める取組などを通じて、自立・持続可能で元気な地域づくりをきめ細やかに進めていくことがますます重要となります。

(自立・持続可能で元気な地域づくりに向けて)

そこに住む人がその地域をよりよくするため、人と人、人と地域、人と自然の絆を深め、自らができることを考え実践することで、地域の生活の中で充実感を得、その地域に住み続けたいと感じることができる地域。そして、地域の人がそれらの活動に共感を覚えることで、地域のすべての人がその地域の愛着・誇りを持つことができる地域。

また、そこに訪れる人がそうした人たちの生活に理解・共感をするとともに、おもてなしの心などを体感することができ、また来たい、住んでみたいと思える地域。

そのような住む人も訪れる人も幸福を実感できる元気な三重の実現をめざします。

2 取組の柱

この目的を達成するために、次の3つの柱に沿って取組を進めます。

- (1) 自発的な地域づくりグループへの支援
- (2) 自立性・持続性を高めるしくみづくり
- (3) 新たなイベントスタイルによる県民力の結集と成果の情報発信

(1) 自発的な地域づくりグループへの支援

「美し国おこし・三重」では、人と人、人と地域、人と自然の“絆”づくりや、地域の資源を活用した付加価値づくりについて、既に取り組んでいるグループの支援や新たなグループの立ち上げ、育成を支援します。

地域の自立性、持続性を担保するには、住民の皆さん自身のアクティブシチズンとしての自立的な意識や自発的な活動が最も重要です。さまざまな主体による「協創」の観点からも、そのことがすべての取組の根幹となることから、住民の皆さんの自発的活動の活性化に取組の焦点をあてていきます。

具体的には、既に地域づくりを進めているグループや新しく地域づくりを始めるグループなど、取組の趣旨に沿った、住民の皆さんによる自発的なグループをはじめ、地域づくりに関心のない、または薄い県民の皆さんも、地域について学び、地域の課題や将来を語る場(座談会)を設け、さまざまな主体が連携して地域に直接入り、県民の皆さんと向かい合って、対話を通じて、“絆”を深める取組や地域資源を掘り起こす取組を支援し、地域の魅力や活力を高めていきます。

本取組に参画する住民の皆さんによる自発的な地域づくりのグループを「パートナーグループ」と呼ぶこととします。平成 21(2009)年から平成 26(2014)年の取組期間中に、地域の実情に応じてパートナーグループの立ち上げや育成の支援を行うこととします。

パートナーグループは、2人以上(18歳以上)が主体となることで構成できるものとし、県民の皆さんはもとより、県外在住者や取組の趣旨に沿った企業や団体(行政含む)の構成員も個人の資格で参画可能とします。ただし、この取組の趣旨に沿った活動を行う既存のNPOや自治会など、住民により構成されるグループについては、パートナーグループの対象となります。

また、取組が6年間と長期にわたることから、次代を担う小・中学生や高校生についても積極的な参画を推奨していきます。

(2) 自立性・持続性を高めるしくみづくり

「美し国おこし・三重」では、取組終了後を見据え、グループの活動の自立性・持続性を高めていくために支援を行う中間支援組織と連携、協働しながら取組を進めていきます。

住民の皆さんによる自発的な地域づくりのグループの活動は、それ自体営利を目的としたものでないか、または、事業性を伴うにしても組織の自立性・持続性に必要十分な経営基盤を確保していないケースが多いのが実情です。

自立性・持続性を高めていくためには、このようなグループが、それぞれの段階に応じた学びの場や機会を設け、パートナーグループの構成員の意識と実力を高める人づくりや、それぞれの分野で流通、誘客、情報、金融などの専門組織や専門家との連携・ネットワークづくりなど、グループの成長戦略や持続戦略を形成できることが重要です。

こうした活動を「美し国おこし・三重」のプロデューサーユニットをはじめ、県内の市民活動支援センターやさまざまな分野で活動する既存の中間支援組織と連携、協働しながら「美し国おこし・三重」を進めていきます。

(3) 新たなイベントスタイルによる県民力の結集と成果の情報発信

「美し国おこし・三重」は、準備段階から始まり、交流・連携の過程、事後の評価にいたるまで、そのプロセス全般をイベントとしてとらえる新たなイベントスタイルによる取組とし、各々の段階でイベント手法を活用しながら、情報発信力を高めて取組を進めていきます。

また、さまざまな主体が特色ある地域資源を生かして取り組む事業などとも広く連携、協働していきます。

イベントには、多彩な交流を生み出す効果、目標や期限を決めて活動を結集する効果、実験的な取組を可能とする効果、活動のPRなど高い情報発信効果、交流人口の増大効果などが期待されています。

この取組は、地域における“絆”づくりや、特色ある地域資源を生かして取り組む地域づくりを基本に、多彩な催しを展開することにより、地域の魅力や価値を向上させ、発信するとともに、集客交流の拡大をはかり、その後の自立・持続可能で元気な地域づくりへとつなげていこうとするものです。そのため、県民力拡大プロジェクトのみならず、取組の企画から準備にいたる過程、活動の発表、その後の成果の継承を含む一連の取組すべてをイベントととらえます。

イベント手法を活用しつつ、継続的な地域振興に役立てていく工夫をしながら、新たなイベントスタイルによる県民力の結集と成果の情報発信を進めていきます。

また、地域や団体、行政などが特色ある地域資源を生かして行っている既存の事業、あるいは、今後取り組む事業などとも、広く連携・協働し、相乗効果を発揮していきます。

1 取組の構成

さまざまなテーマ、さまざまな主体による地域づくりと効果的な情報発信を実現するために、次の3つの取組を中心に構成します。

(1) 地域での美し国おこし

- 「美し国おこし・三重」終了後も、参画した住民の皆さんが主体的に地域づくりを継続していけるよう、地域の連携や、経済的な循環のしくみづくりを進めていきます。
- 幅広い意見やアイデアを交換し、地域の課題や将来の展望を語り合う「座談会」や「美し国おこし」の取組に参画する「パートナーグループ」などのしくみと、その活動を継続的に支える方策や制度の確立を進めていきます。
- 「美し国おこし」に関わる皆さんが一堂に会する成果発表や交流の場を設け、情報共有やモチベーションの向上などをはかることで、次年度以降の取組の拡大・発展につなげていきます。

(2) テーマに基づき全県的に取り組む美し国おこし

- 県内各地域のパートナーグループの活動の中から共通する分野の活動を連携し、「テーマに基づき全県的に取り組む美し国おこし」として全県での取組を推進します。
- 企画段階から各市町やパートナーグループ、関連民間企業、専門家などの参画を呼びかけます。
- 県内の民間企業が主体的に取り組む社会貢献活動などとの連携によって、事業の推進力を向上していきます。

(3) 節目に行う効果的な情報発信の取組

- 県民力拡大プロジェクト〔平成 26(2014)年〕
「美し国おこし・三重」の5年間の活動成果を内外にアピールし、「地域をよりよくしていこう」とする三重の県民力を新たな時代に向かって拡大していきます。
 - ① 「こころめぐる三重 2014(仮称)」
 - ② 「三重県アクティブシチズンふれあいの会(仮称)」
 - ③ 会議・シンポジウム等の誘致

2 取組の展開

(1) 地域での美し国おこし

(地域取組段階①)

座談会開催(キーパーソン探し)



- 地域づくり関係者をはじめ、住民の皆さんとの座談会を、市町ごとに、複数回開催していきます。
- 地域の課題やビジョンなどについて意見交換するとともに、地域が一体となってキーパーソンを顕在化していきます。
- 実行委員会は、プロデューサー(ファシリテーター)を派遣します。

(地域取組段階②)

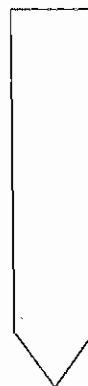
パートナーグループ登録



- 座談会の次の段階として、既存のグループも含めて、趣旨に賛同いただけるグループにパートナーグループとして登録いただきます。
- パートナーグループの登録要件は、「地域における“絆”づくり」や「地域の資源を活用した付加価値づくり」を進めている、または進めようとする、2人以上(18才以上)のグループとし、全県的に参画を呼びかけます。
- パートナーグループとして登録することにより、「美し国おこし・三重」の支援メニューを受けることができます。

(地域取組段階③)

パートナーグループ支援



- 実行委員会は、平成26(2014)年の「美し国おこし・三重」の取組終了後もパートナーグループの活動、事業が継続・発展できるよう、取組期間を通じて、パートナーグループの自立・継続性を高めるための支援を行います。
- 財政的支援を受けようとする場合には、プロジェクト企画において、「活動の目的・目標」、「さまざまな主体の役割分担・責任」、「活動の持続性」、「スケジュール」、「資金計画」、「成果検証のしくみ」などを明確化していきます。プロジェクトの企画書の作成にあたっては、実行委員会(プロデューサーなど)がお手伝いします。

活動の継続・発展

(2) テーマに基づき全県的に取り組む美し国おこし

(テーマ取組段階①)

テーマプロジェクト企画



- 実行委員会は、全県で取り組む企画として、「テーマ」、「キーワード」、「ストーリー」に沿った、テーマプロジェクトを企画し、参画を呼びかけます。

(テーマ取組段階②)

テーマプロジェクト認定



- 参画を希望するパートナーグループは、市町やプロデューサーと協議し、実行委員会にテーマプロジェクトに対しての必要な支援を要請します。
- 認定については、実行委員会が実施します。

(テーマ取組段階③)

テーマプロジェクト実施



- 実行委員会は、認定されたテーマプロジェクトに取り組むパートナーグループや関係するさまざまな主体の活動をとりまとめプロジェクトを実施します。
- 実行委員会は、平成26(2014)年の「美し国おこし・三重」の取組終了後も同様の活動が継続できるよう、取組期間を通じて、プロジェクトの事業性、参画するパートナーグループの自立性を高める支援を展開していきます。

活動の継続・発展

【テーマプロジェクト例】

- この取組を契機として、今後、三重県全域で継続的に、人と人、人と地域、人と自然の“絆”を深め、この地で暮らしたい、暮らし続けたい、訪れたいと実感することができるような「美し国おこし」を展開していくため、県内各地域のパートナーグループの取組の中から共通する分野の活動を全県的に連携し、テーマプロジェクトとして組み立てることにより、それぞれの取組の情報発信力を高め、相乗効果を発揮していきます。

(3) 節目に行う効果的な情報発信の取組

「美し国おこし・三重」の最終年である平成 26(2014)年には、「美し国おこし・三重」の5年間の活動成果を内外にアピールするとともに、「地域をよりよくしていこう」とする三重の県民力を新たな時代に向かって拡大する県民力拡大プロジェクトを実施することとし、具体的には、次の取組を展開していきます。

① 「こころめぐる三重 2014(仮称)」[平成 26(2014)年]

期間 平成 26(2014)年春から半年程度

場所 県内各地域

- 内容
- a 地域における絆づくりや特色ある地域資源の磨き上げといった「美し国おこし・三重」の取組の成果を生かし、パートナーグループだけではなく、地域づくりグループや事業者・企業・団体等を巻き込んださまざまな主体が企画・整備するプログラムによる集客・交流イベントを展開します。
 - b 県民や県外の観光客が気軽に参加できるように、タウンツーリズム、グリーンツーリズム、エコツーリズムなどのさまざまなタイプの集客・交流プログラムづくりを支援します。
 - c パートナーグループをはじめとする地域の皆さんが、地域のさまざまな課題の解決や新たな魅力の発信に取り組む、体験や学び、交流や仲間づくり、飲食やショッピングなどのプログラムづくりを支援します。
 - d プログラムを魅力的に紹介し、集客するための広報を実施します。

② 「三重県アクティブシチズンふれあいの会(仮称)」[平成 26(2014)年]

期間 平成 26(2014)年秋の数日間

場所 三重県営サンアリーナ(伊勢市)

- 内容
- a 「美し国おこし・三重」の取組の締めくくりを実施します。
 - b 全パートナーグループが一堂に会し、5年間培ってきた成果を発表し、その後の活動の継続についての展望を語り合う場を設けます。
 - c 県内外からの集客を図るため、集客を見込める分野に注力した出展やさまざまな分野における成果のカンファレンスなどを企画します。

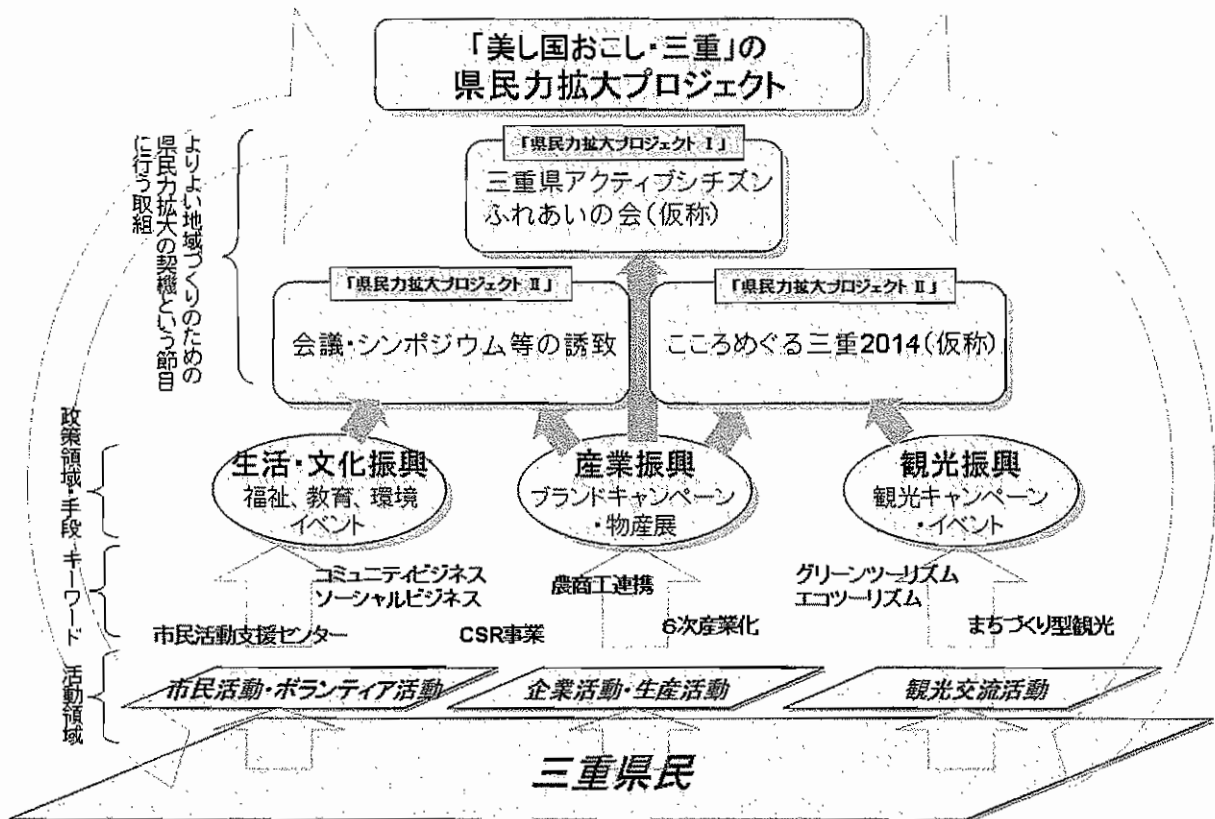
③ 会議・シンポジウム等の誘致

期間 平成 26(2014)年秋

場所 県内各地域

- 内容
- a 地域づくりに関する全国大会などを誘致し、「美し国おこし・三重」の取組の成果などを生かした地域づくり活動の披露の場づくりを実施します。
 - b 取組終了後の活動の継続や発展につなげるため、パートナーグループをはじめとする地域づくり関係者の皆さんの交流が深められるよう、他のイベントとの連携を図りながら実施します。

【県民力拡大プロジェクトの構造図】



1 基本的な考え方

個別支援座談会を通じて、パートナーグループの自立性・持続性を高めるために必要な活動の内容を整理、グループ内の共有を図り、当該活動を実施するために必要な課題を明確にするとともに、その解決方法・スケジュールを提示し、支援する。

具体的には、支援ニューを活用し、中間支援組織等と連携、協働しながら実施します。

2 支援メニュー

地域における取組を促進するため、専門家の派遣などの人的支援や財政的支援など、次のような支援を行います。

(1) 研修【人材(キーパーソン)の育成】

地域づくりのリーダーを育成するため、主にパートナーグループを対象に、県内各地域で、次のような研修を行い、地域づくりを行う団体の活動をパワーアップさせるとともに、既存の団体の意識改革にもつなげていきます。特に、活動の自立性・持続性を確立していくため、経済的な視点とノウハウを持った人材の育成をめざします。

① 市民プロデューサー養成研修

パートナーグループの活動を活性化するため、経済的な視点とノウハウを持った人材を育成します。

パートナーグループを対象に、意欲と志のある方に受講を呼びかけます。

② ファシリテーション研修

異なる立場や考え方を持つ人びとの話し合いの場において、対話をとおして発想を膨らませたり、全員のアイデアを統合して新たな知恵を生み出したりする「場づくり」のスキルや「進行役」としての心構えを持った人材を育成します。

パートナーグループのほか、県や市町の行政職員も対象とします。

③ 広報・情報発信研修

自分たちの取組を広報することにより、仲間を増やしたり、多くの人から支援を得たりするなど、ネットワークを広げていくためには情報発信力を持つことが不可欠です。

情報発信のスキルや交流を創出するためのノウハウを持った人材を育成します。

④ マネジメント研修

活動を継続させるためには、事業収益を上げることも含め、いかに資金を確保するかということが課題となります。企業の社会貢献活動との連携や賛同者・出資者の確保、さまざまな融資制度や助成制度の活用など、活動を継続させるための研修を行います。

(2) 専門家派遣

実行委員会は、パートナーグループの活動を活性化し、課題を解決するため、市町やパートナーグループの要請に基づき、ふさわしい専門家を派遣します。

(3) 広報・誘客支援

個々のパートナーグループの活動を広報・誘客面で支援していきます。県や市町とも連携をはかりながら広報・誘客事業を展開していきます。

(4) ネットワーク化支援

① 成果発表や交流の場の設置

実行委員会主催で年1回、それぞれのパートナーグループの成果発表や交流の場を設けます。他のパートナーグループとの交流・連携の輪を広げ、それらの活動から気づきを得ることで、その後の活動の活性化につなげていきます。

② サポーターズクラブ

実行委員会において、「美し国おこし・三重」やパートナーグループの活動を応援していただけるサポーターを募集します。ホームページにより、サポーターの希望(取り組みたいこと、手伝えること)とパートナーグループ等が求める支援とをマッチングします。

また、企業の地域貢献活動や地域との連携を進める大学などさまざまな主体との連携を図る契機とします。

(5) 財政的支援

① プロジェクト認定を受けたパートナーグループに対する支援

パートナーグループが行う認定されたプロジェクトに対する初期投資に要する経費を1回限り(年次計画による分割も可)支援します。

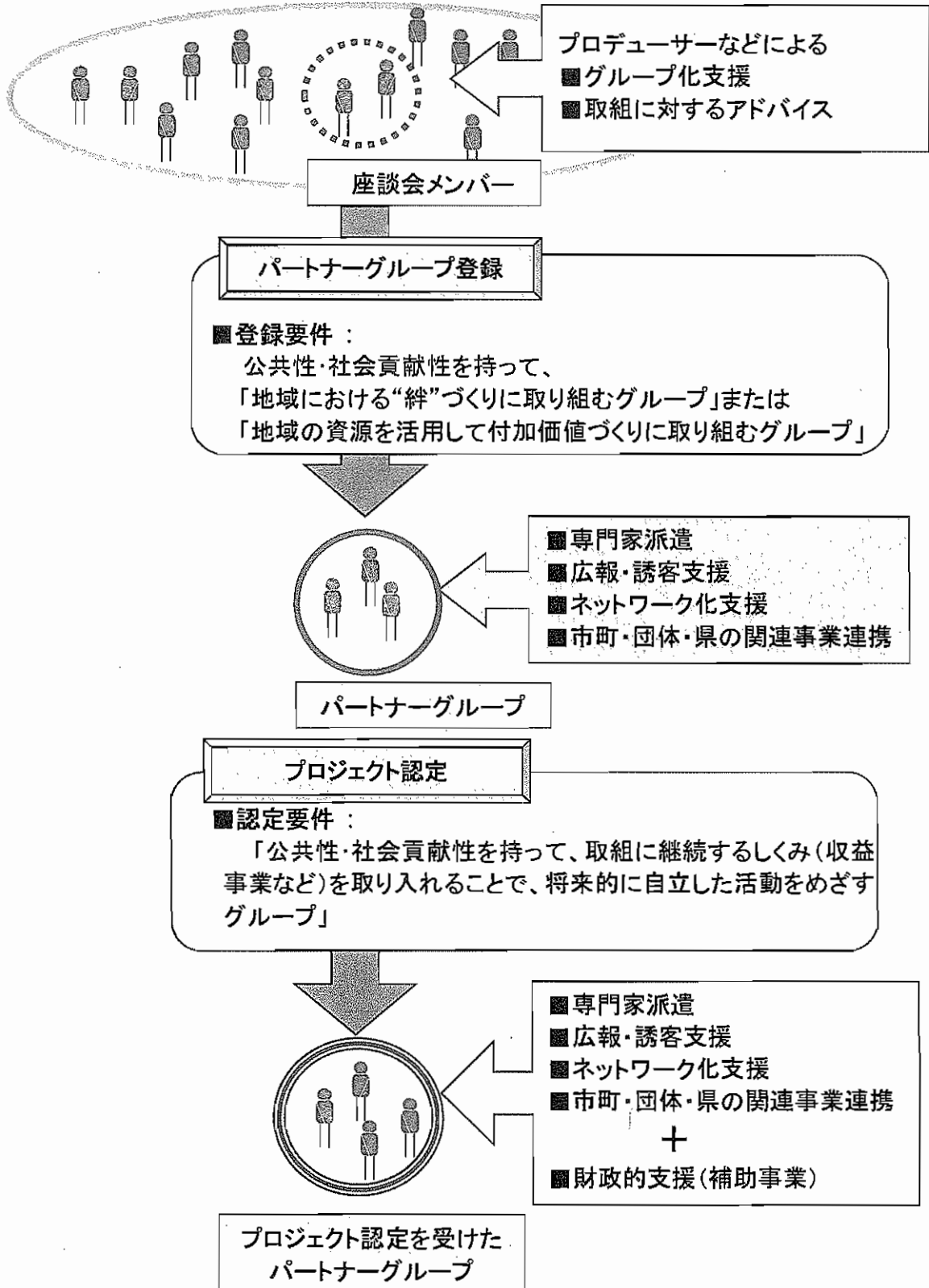
支援にあたっては、「美し国おこし・三重」の趣旨に沿った、新たな取組もしくは既存の取組でバージョンアップする部分など、「自立性」、「持続性」、「成長性」などがあるものを対象とします。

② 市町が参画する実行委員会などが実施する「美し国おこし」の取組への支援

市町を含む地域のさまざまな主体が参画する実行委員会などによる取組を支援します。

支援にあたっては、「美し国おこし・三重」の趣旨に沿った、新たな取組もしくは既存の取組でバージョンアップする部分など、「自立性」、「持続性」、「成長」などがあるもの、また複数の市町からなる広域の取組を対象とします。

【参考：パートナーグループの育成と支援 概念図】



【基本的な考え方】

イベント手法の活用による最終年に向けた取組を展開するとともに、幅広く取組への参画を呼びかけていくための周知と、交流・連携の拡大につながる活動情報や成果の発信、県民力拡大プロジェクトなど節目における参加・交流者数の増大につなげる宣伝など、取組内容に応じた、より効果的な情報発信を、次の観点から行っていきます。

1 「美し国おこし・三重」の取組全体についての情報発信

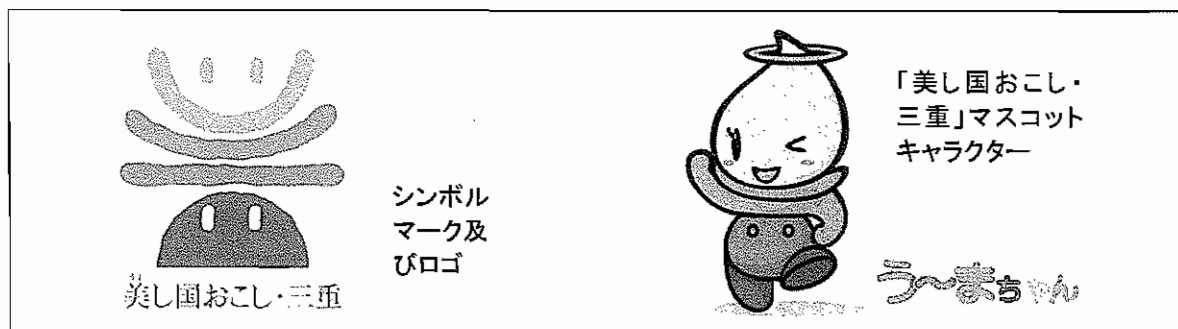
- ① 「美し国おこし・三重」の取組の理解と参画の促進
- ② 「美し国おこし・三重」の取組状況のPR

2 個々のパートナーグループの取組についての情報発信

- ① パートナーグループの設立や活動メンバー、取組内容などの紹介
- ② 催しへの参加募集や販売促進、誘客促進など、個々のパートナーグループにおける活動告知の支援

具体的には、次のような手法により、取組を展開していきます。

- 県内外の皆さんに知っていただくために、インターネットを活用した情報発信、パンフレット、ちらし、機関紙などの配布、地域づくりについての講演会や研修会により、取組の周知をはかります。また、シンボルマークやロゴに加え、マスコットキャラクター「う～まちゃん」を使用した統一的な広報を行うことで、情報発信力を高めます。



- 各地域において取組期間を通じて地域情報誌やケーブルテレビなどの各種媒体を利用して、パートナーグループの活動状況とその成果を情報発信するとともに、節目における集客・交流や機運の醸成時には新聞やテレビなどのマスメディアを有効に活用するなど、より効果的な情報発信を行っていきます。
- 実行委員会の構成団体におけるそれぞれの広報宣伝活動と連携して、情報発信力を高めます。
- 「美し国おこし・三重」の取組を理解していただくために、パートナーグループの活動の自立性・持続性を高めた成功事例、特に、誘客、販売、移住・交流、ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスに関連する活動を、「美し国おこし・三重」の取組の成果として、積極的にPRしていきます。

「美し国おこし・三重」の取組では、自立・持続可能な地域づくりにつなげるため、「誘客」、「販売」、「移住・交流」、「ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス」の4つの分野に注目し、積極的な情報発信を行っていきます。

(1) 誘客

従来型の団体旅行だけでなく、多様化する個人のニーズに対応した、体験観光、まち歩き観光、エコツーリズムなどの新しいツーリズムに関する情報を提供することで、三重県において「住む人」と「訪れる人」との交流、“絆”を深めてもらえる機会を提供し、より多くのリピーター、三重ファンを増やせるような取組を奨励していきます。

また、これらのツアーを旅行会社などの専門家と連携して地域密着型旅行商品に結びつけるなど、県民力拡大プロジェクトなどの節目に実施する情報発信力の強い取組と合わせて、三重県への誘客をはかります。

(2) 販売

地域資源を活用した新たな製品づくりの活動や産品の特徴を生かした地域ブランドづくり、その管理手法の研究を通じた付加価値づくりなど地域経済の活性化につながる取組を奨励していきます。

各パートナーグループの活動の産品開発に係る課題解決を支援し、開発された産品の販売についても支援メニュー「広報支援」を実施していきます。

(3) 移住・交流

団塊の世代や若者などの都市住民に、UJIターンや二地域居住を促し、移住・交流人口の拡大をはかることは、「美し国おこし・三重」がめざす特色ある地域資源を生かした自立・持続可能で元気な地域づくりのために、有効な方策として奨励していきます。

市町と連携をはかりながら、地域や市町が主体となって行う受入れ体制づくり、空き家などの情報提供を行うとともに、田舎暮らし体験ツアーの実施などの取組を支援していきます。

(4) ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス

ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスは、社会的課題を解決するために、ビジネスの手法を用いて取り組む事業のことで、地域において、雇用の創出や働きがい、生きがいを生み出すとともに、地域コミュニティの活性化に寄与するものとして奨励していきます。

ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスの運営上必要な技術や経営の基礎知識の修得などの支援を実施していきます。

1 検証・評価

【基本的な考え方】

「美し国おこし・三重」は、県内全域で6年間にわたる「新たなイベントスタイル」による取組であることから、その成果を検証・評価し、今後の自立・持続可能な地域づくりに生かしていくことが重要です。

このため、実行委員会は、この取組のPlan(計画)－Do(実践)－See(評価)を展開していくため、自ら取組全体のしくみや成果について、次のように検証・評価を行っていきます。

また、パートナーグループについては、その後の自らの活動に生かしていくため自己評価を行うことを推奨していきます。

なお、この取組における検証・評価は、地域のそれぞれの取組を比較するのではなく、自らの検証・評価を通じて、取組全体のしくみや活動を改善し、効果を高め、成果を共有・継承していくために行うものとします。

- 全体指標を設定し、検証・評価します。
- 座談会、「テーマに基づき全県的に取り組む美し国おこし」、県民力拡大プロジェクトなどの個別の取組については、実施計画などにおいて個別に取組指標を設定し、検証・評価します。
- 検証・評価の結果については、次年度以降の取組に生かしていきます。

2 目標の設定

(1) 全体指標と目標の設定

この取組は、地域の魅力や価値を向上させ、発信するとともに、集客交流の拡大をほかり、自立・持続可能な地域づくりへとつなげていくこと、また、人と人、人と地域、人と自然の“絆”を深め、この地で暮らしたい、暮らし続けたい、訪れたいと感じることのできるような「美し国おこし・三重」を展開していくことを目的としていることから、次の3つを全体指標として設定します。

● 集客・交流者数

県民力拡大プロジェクト参加者数

2014年(平成26年)目標 延べ20万人

「美し国おこし・三重」の5年間の活動成果を内外にアピールし、「地域をよりよくしていこう」とする三重の県民力を新たな時代に向かって拡大する集客交流イベントを開催し、集客・交流の効果を、自立・持続可能で元気な地域づくりへとつなげていく取組であることから、全体指標の一つとして設定します。

● ネットワーク構築数

パートナーグループアンケートなどによる地域内外のさまざまなパートナーグループや団体との間に構築したネットワーク数

2014年(平成26年)目標 延べ3,000グループ

パートナーグループが、地域内外のさまざまなパートナーグループや団体と交流・連携を進めていくことは、この地で暮らしたい、暮らし続けたい、訪れたいと感じることのできるような「美し国おこし・三重」を展開していくにあたっての絆づくりとして重要な要素であることから、全体指標の一つとして設定します。目標とする1,000のパートナーグループが、文化や分野、業種を越えて、平均して3つの新たなネットワークを生み出すことを目標とします。

● 地域への愛着度

三重県が実施する「e-モニター」による「地域への愛着度」

2014年(平成26年)目標 90%

(基準年:2011年(平成23年) 79.3%)

この地で暮らしたい、暮らし続けたい、訪れたいと感じることのできるような地域づくりを進める上で、地域の皆さんが、それぞれの地域に対して「愛着」や「誇り」を感じ、また、そうした気持ちが高まっていることが重要な要素となることから指標とします。

(2) 個別の取組指標と目標の設定

① 取組の3つの柱ごとの指標と目標の設定

ア 自発的な地域づくりグループへの支援

● パートナーグループ数

パートナーグループとして登録されたグループ数

2014年(平成26年)目標 延べ1,000グループ

パートナーグループがこの取組の主役となることから、取組の柱の一つの指標として設定します。グループ数を単純に増やすことを目的とするのではなく、6年間で新規、既存も含めて、「美し国おこし・三重」の取組の趣旨に沿って、自立・持続可能な地域づくりに向け、そのしくみづくりをともに考え、連携の輪を広げ、協働して取り組んでいただける1,000のパートナーグループが登録されることを目標とします。

● パートナーグループの活動充実・満足度

この取組に参画するパートナーグループの自己評価による活動充実・満足度

2014年(平成26年)目標 70%以上

個々の取組を実際に行うパートナーグループの皆さんのおもいを積み上げるものとして、取組の柱の一つの指標として設定します。自立・持続可能な地域づくりのためには、個々の取組が継続して実施されていくことが重要であることから、7割以上のグループからこの取組に参画して良かった、成果が上がった、意義ある取組であると評価いただけることを目標とします。

イ 自立性・持続性を高めるしくみづくり

● 自立・持続のしくみの構築数(中間支援組織・機能)

パートナーグループや市民活動を支援する中間支援組織(機能)など地域づくりの取組の自立・持続性を高めるしくみの構築数

2014年(平成26年)目標 延べ30件

地域づくりを進めるパートナーグループや団体が、自立した活動を継続し、活動の輪を広げていくためには、それらの活動を支援する中間支援組織・機能の果たす役割が大きいことから、取組の柱の一つの指標として設定します。パートナーグループを中心に、新たに30件の支援組織の創設や機能の拡充が行われることを目標とします。

ウ 新たなイベントスタイルによる県民力の結集と成果の情報発信

● 集客・交流者数

県民力拡大プロジェクト参加者数(再掲)

2014年(平成26年)目標 延べ20万人

「美し国おこし・三重」の5年間の活動成果を内外にアピールし、「地域をよりよくしていこう」とする三重の県民力を新たな時代に向かって拡大する集客交流イベントを開催し、集客・交流の効果を、自立・持続可能で元気な地域づくりへとつなげていく取組であることから、全体指標の一つとして設定します。

● 地域活動参加率

三重県が実施する「e-モニター」による地域の活動への参加率

2014年(平成26年)目標 38%

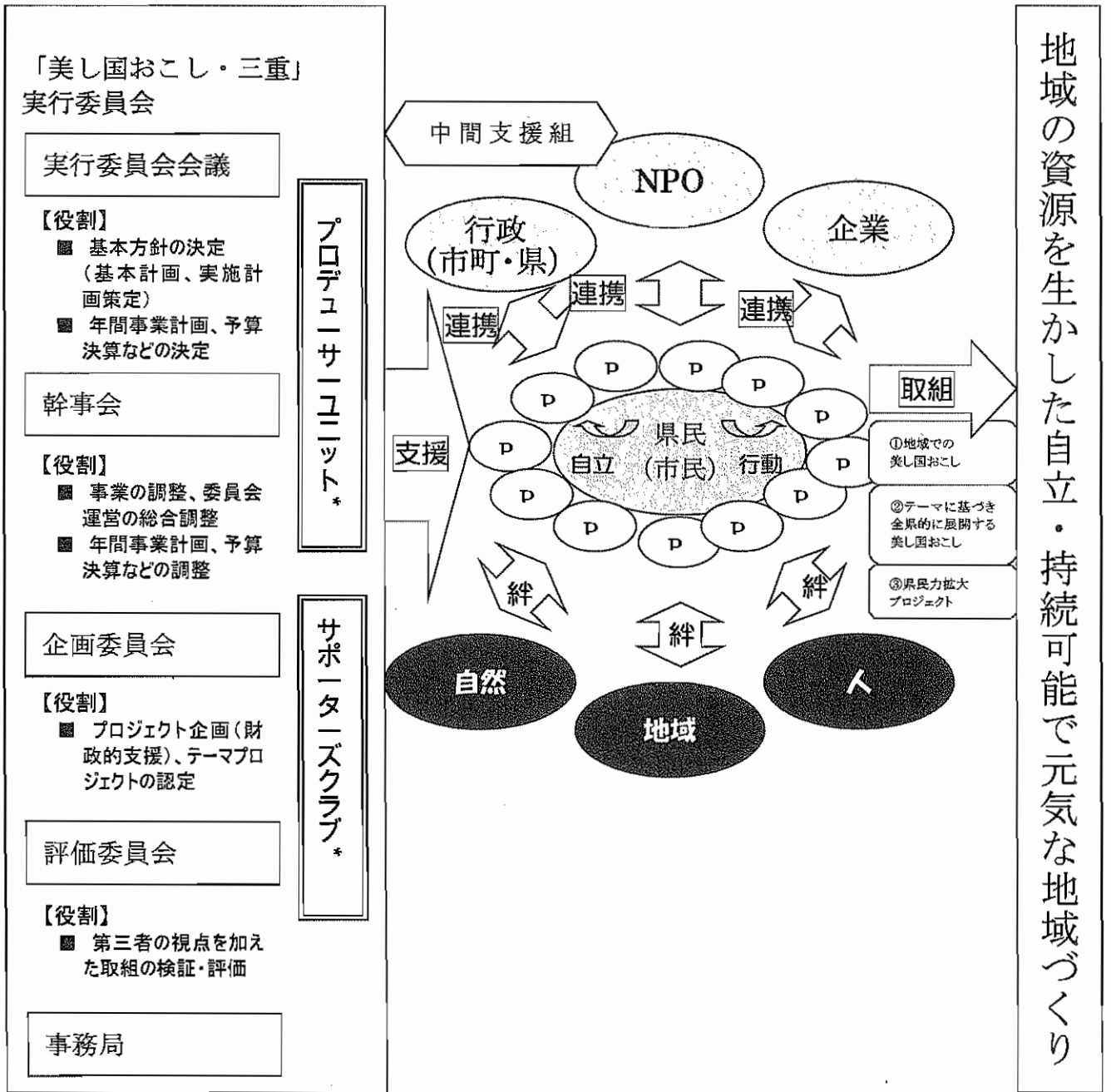
(基準年:2011年(平成23年) 33.6%)

地域づくりの活動に参加する方の数を増やすことは、自立・持続可能で元気な地域づくりに向けて重要な要素となることから、取組の柱の一つの指標として設定します。

② その他の個別の取組指標と目標の設定

各取組の実施計画などにおいて、参加・交流者数などの個別の取組指標、目標を設定します。なお、パートナーグループが行う個別の取組においては、それぞれの取組ごとに指標と目標を設定し、自己評価を行うこととします。

1 推進体制・ステークホルダー相関図



プロデューサー〔委託契約〕

【役割】

- 全体事業進行管理・統括
- パートナーグループの取組支援
- キーパーソン発掘・養成

【構成】

- 総合プロデューサー
- 地域担当プロデューサー

【備考】

- 県内人材の登用・育成機会としていく。

サポーターズクラブ〔登録制：個人・法人とも〕

【役割】

- PRサポート
(「美しい国おこし・三重」の取組をもっと知ってもらうためのPR)
- 担い手サポート
(パートナーグループの活動や実行委員会の取組へのサポート)

【構成】

- 三重県を愛し、取組趣旨への賛同者

2 「美し国おこし・三重」における県の推進体制の整備

平成 19(2007)年 11 月に、県の各部局などが連携・協力し、一体となって「美し国おこし・三重」に取り組むために設置した「美し国おこし・三重」推進本部を中心に、地域づくりにつながる県関連事業を総合的、効果的に実施するため、横断的な事業展開の調整や既存の支援事業・制度などの整理、ワンストップサービス機能の構築、実行委員会との連携体制の充実をはかり、「美し国おこし・三重」の取組を積極的に推進していきます。



第8章 スケジュール

集大成イベント実施計画策定調査業務の最終報告を受けて記入します。

